

3 年生～1 年生の
学生・保護者各位

国際協働研究センター

ニュージーランド提携校(オタゴポリテクニク)短期留学に関する説明資料

各方面で国際化が求められていますが、本校の教育方針の 3 つめに「国際性を育てる教育」があり、「国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる優秀な技術者を育てます。」とあります。

本校では、この方針を達成するために、授業を中心に多角的に取り組んでいますが、その一環として、海外の提携校とオリジナルなプログラムを組み、平成 27 年 3 月に第 1 回短期留学を実施しました。この度、大阪府立高専と共催で、第 2 回目の短期留学を実施することになりました。民間旅行社のものとは異なる、本校と提携校が協働開発したオリジナルの密度の濃い海外短期留学に行ってみませんか。



1. **名称**：平成 28 年度オタゴポリテクニク短期留学
2. **時期**：平成 29 (2017) 年 3 月 12 日 (日) ～3 月 26 日 (日)
3. **募集定員**：20 名 (大阪府立高専でも同時に 20 名を募集し、計 40 名を派遣予定)
募集対象：3 年生以下の学生 (応募が定員に満たない場合は検討。本校・大阪府立高専から教員各 1 名が引率。)
4. **選抜方法**：応募が 20 名を超えた場合、志望動機などの課題作文等により上位 20 名を選抜する。
5. **主な内容**：English+Engineering Programme
授業：英会話、技術英語、CAD、数学、エンジニアリングデザイン (ブリッジコンテスト)
参加者が計 40 名の場合、機械工学・電気工学の専門科目を取り入れた機電系コースを一部設けることを検討。
現地学生との交流(予定)：オタゴ学生との週 1 回のランチ、語学専攻の学生のアシスタント、ブリッジコンテストでの共同作業、ニュージーランドと日本における工業、工業教育、観光などの紹介と意見交換
宿泊：ホームステイ (逆に、オタゴの学生の日本家庭への受け入れはない)

6. 費用：約 40～45 万円（予定）

費用に幅があるのは、サーチャージ（飛行機に乗る際の、燃料費の高騰などによる付加的費用。現在は無し。）、為替レート等により変動する可能性があるためです（参加者が 40 名を下回ったときの按分増などの可能性もあります）。なお、プログラムの中で週末の観光等のオプションが用意されており、それは別料金となります。他にパスポート取得費（所持していない場合）、小遣い、昼食代（1 食分）、国内での交通費等が必要。

7. 今後の主な日程

7月 23 日（土） 11:30 - 13:00 及び 14:30 - 16:00（随時）

第 2 回説明会（保護者の参加が多いと思われませんが、学生諸君も歓迎致します）

上記の時間帯随時、人数に応じて数回、説明会+相談会を行います。

於：専攻科大講義室（専攻科棟 2 F）

9月 2 日（金） 17:00 短期留学参加 申込締め切り

10月 5 日（水） 選考結果発表

10月 7 日（金） 16:40 参加者説明会 以降の研修等について説明

8. ニュージーランド及びオタゴポリテクニクについて

ニュージーランド

公用語：英語、マオリ語

首都：ウェリントン

最大の都市：オークランド

面積：約 27 万 km²（世界 73 位） ⇔ 日本：38 万 km²、60 位

大きさ：北島・南島約 2000km ⇔ 日本：北海道・九州約 3000km

人口：445 万人（122 位） ⇔ 日本：1 億 2600 万人（10 位）70%が北島に住んでいる。

人口密度：16.5 人/km² ⇔ 日本：337 人/km²

ヨーロッパ系白人：68%、マオリ族：15%、ゴールドラッシュ 1960 年以降、中国人が増えている。

マオリ族は、顔も含め、モコと言われる刺青をしていることが多い。

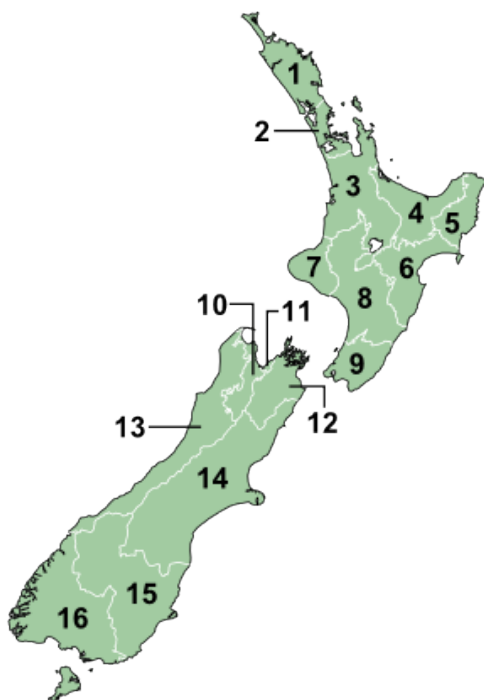
英語：96%、マオリ語：4%

通貨：ニュージーランドドル（NZD）88.3 円/NZD（2014.6.16 現在）

歴史：9 世紀ごろポリネシア人が開拓、その子孫がマオリ人

1907 年 9 月 26 日：イギリスより独立、スコットランド、イギリス、オランダから移住

1985 年：日本とワーキングホリデー協定を結ぶ（30 歳以下、1 年間）



ニュージーランドは、16 の地方に分かれる。

北島

1. ノースランド **2. オークランド** 3. ワイカト 4. ベイ・オブ・プレントィ 5. ギズボーン 6. ホークス・ベイ 7. タラナキ 8. マナワツ・ワンガヌイ 9. ウェリントン（クック海峡を挟む）

首都ウェリントン、政府機関が集中、最大都市：オークランド、年間 100 日以上降雨、火山活動

南島

10. タスマン 11. ネルソン 12. マールボロ 13. ウェスト・コースト 14. カンタベリー **15. オタゴ** 16. サウスランド

中心都市：クライストチャーチ、南半球のアルプス山脈：クック山（3754m）、クイズタウン：世界的観光地、南島から 2600km 離れて南極大陸がある。

特徴：

- ・ラグビーのオールブラックス、試合前のダンス「ハカ」は有名、クリケットも盛ん。
- ・車は 90%以上が日本車、かつ中古車を輸入している。交通は日本と同じ（車左通行）、ただし、交差点はロータリー方式もある。
- ・人口の 10 倍以上の家畜のため地球温暖化の指摘もある。羊・牛の「ゲップ・おなら」はメタンガスであり、CO₂よりも 21 倍温室効果があると言われている。
- ・エネルギーは、風力・水力で 70%、原子力は法律で規制されている。人口が多くないので必要ない。

オタゴ地方

- ・3 万 km²、人口 20 万人、18 歳以下が 30%と若い町である。・中心都市：ダニーデン市、オークランド市から約 1000km、飛行機で 2 時間の距離、12.5 万人、平均気温：夏 23°C、冬 11°C。南島では学生が減っているが、オタゴ地方は学生の卒業生・在学生の充足率を高めているので、3 年間増え続けている。工業に力を入れてきた。
- ・9つの大学、17のポリテクニクがある。政府の評価で、オタゴポリテクニクは、No.1 の評価を受けた。

オタゴポリテクニク

ダニーデン、セントラルオタゴ、オークランドの 3 キャンパスがある。学生数：4000 名、教職員 600 名。ダニーデンキャンパスの工学系のひとつに、School of Architecture, Building and Engineering (ABE School)がある。学生数：650 名、教職員 65 名。政府からの資金は潤沢で (No.1 ゆえ)、高価な機械が多く導入されている。日本の高専レベル以上である。

詳細は情報は、下記 Web より得られます。日本語版学校案内もダウンロードできます。

<http://www.op.ac.nz/international/>

詳細資料

オタゴポリテクニク短期留学の狙い

- ① 2013 年秋に提携関係を結んだオタゴ・ポリテクニク (Otago Polytechnic) で情報、数学、CAD (コンピュータ支援設計)、都市工学基礎等の専門科目の授業を英語で受けることにより、日常の英語に加え、専門科目に必要な英語の運用力を向上させる。(参加者が 40 名の場合、新たに機械工学・電子工学の専門科目を取り入れた機電系コースを一部設けてさらに充実させることを検討。)
- ② ニュージーランドと日本の「もの作り」(工業及び工学)及び「もの作り」に関する教育の共通点や相違点等についてニュージーランドの学生とディスカッションを行い、各々の良い点や改善すべき点を洗い出す。
- ③ 現地の学校で学んだことに関してリサーチ、実習、プレゼンテーションを行い、現地の先生からの批評、感想を頂く。
- ④ 現地の同世代の学生と交流し、異文化理解を深める。日本や地元の兵庫県、伝統文化や現代文化に関して英語でプレゼンを行う。これらを通じて、異文化とともに自国文化に対する理解を深める。
- ⑤ 海外でのホームステイや学校生活、地域の人々との交流を通じて、積極的にコミュニケーションする力、主体的に行動する力を養成する。
- ⑥ 英語圏の国で生活し、英語で学ぶ機会を経験することにより、帰国後の英語学習への動機づけとし、将来「英語を道具として」外国でも活躍できる人材を養成する。
- ⑦ 上記目的を通して、他者を尊重し協調しながらも主張するべきことをしっかり伝えられる、将来国内外で活躍できる人物、特に「もの作り」のエンジニア・開発者の育成を行う。

派遣前の学習（予定）

- ① 全体説明（10月）
 - ・派遣プログラムの概要、派遣前の学習計画、英語の学習についての説明。
- ② (1)派遣団全体の目標、個人の課題設定（11月頃）
 - 「個人の課題設定」に関して、ペアディスカッションとグループディスカッションを行い、各自が文章化する。
 - ⇒各個人の課題設定をもとに、「派遣団全体の目標」を決定する。
- (2)派遣先国研究準備・現地でのプレゼンテーションの準備
 - ・地理、歴史、文化、現代社会、教育、産業(工業、工学を含む)を調べる準備について。
 - ・現地でプレゼンテーションをする準備について。
- ③ 専門関連科目の英語での学習（12月頃）
 - ・本校外国人教員から指導を受ける。
- ④ 派遣の心構え・諸注意（12月頃）
 - ・本校教員及び旅行者による生活面・心構え等に関する事前指導。
- ⑤ 英語でのプレゼンテーション、ディスカッションの準備（1月頃）
 - (1)神戸・日本及びその文化について英語でのプレゼンテーション発表会
 - (2)本校外国人教員から指導を受け、「もの作り」(工業・工学)及びその教育に関して英語でディスカッションをする準備を行う。
- ⑥ 派遣の心構え・諸注意（2月頃）
 - ・本校教員及び旅行者担当者による注意・心構え等に関する事前指導。

現地での語学力向上への取り組み

- ① 英語コミュニケーションの授業を毎日 60 分受ける(1h×9 日)。
- ② 工学系専門科目及び専門関連科目を午前中に 2 時間、午後に 3 時間英語で学ぶ (およそ 5h×9 日)。
 - 午前中には、工業技術英語と CAD(コンピュータ支援設計)を中心に学ぶ。午後は工学を学ぶが前半には数学・物理の要素がやや多く、後半の授業のための設計や実習を含む。後半は実習やプレゼンテーションの割合がより高い工学の授業を受ける。
 - (前回の例 1)ブリッジ・コンテスト
 - (前半)提携校の先生が橋の設計の力学的理論を説明⇒各学生が設計、バルサ材で橋を製作
 - (後半)各学生が製作したバルサ材の橋を見せながら、工夫した点等を力学的観点からプレゼンテーション⇒全学生の橋に同時に重りを段階的に損壊するまで増やしていくコンテスト
 - ⇒優勝者の設計を力学的に再分析
 - (前回の例 2)ダニーデン・スタジアム・ツアー
 - (前半)提携校の先生が、スタジアム等の建造物で工学的に工夫された点を理論から説明する。
 - (後半)提携校の先生と一緒に、ダニーデン・スタジアムを見学し、実地で学ぶ。
 - 上記は第 1 回の内容で、今回機電系のコースを併設する場合は、機電系コースは機械系・電子系の科目を増やす予定。
- ③ ホームステイ(現段階で、一軒のホストファミリーに一人の学生が滞在する予定)、学校生活、地域の人々との交流
 - 積極的にコミュニケーションする力、主体的に行動する力を養成する。双方向の交流を行う。

現地学生との交流(予定)

- ① 神戸・日本及びその文化について英語でプレゼンテーションを行う(滞在の早い段階)
- ② 現地校の工学系学生とディスカッションを行う(滞在の終わりに近い段階)
 - ・現地校の工学系学生と、日本とニュージーランドの「もの作り」及びその教育に関して英語でディスカッションをし、共通点や相違点を知り、各々の良い点を相互に学び合う。

現地での支援体制

引率教員は、派遣生がプログラム全体を通じて、適宜必要なサポートを行い、現地校、ホスト・ファミリー、旅行者等の各機関との連携・調整を行う。

- ① 授業等で、サポートの必要な学生を適宜サポートをする。
- ② 派遣生の体調・心理面のケアを適宜行い、必要に応じて生活面、学習面のアドバイスをを行う。

旅行者：(株)アイエスエイ(関西支社 担当者竹島様)

保険会社：NZ 国内では Uni-Care (NZ Student Plan)に全員加入。 www.uni-care.org

→オタゴ・ポリテクニクが手配

その他は希望に応じて、任意で旅行保険に加入。

危機管理

- ・健康に関する記名アンケート、渡航前の健康診断を実施する。常備薬の準備・早期治療等を確認する。歯科等で治療の必要な学生は事前に治療をしっかりと行い、かかりつけ医に相談する。持病等のために必要な場合は、英文での診断書を事前に準備する。
- ・現地校、旅行者、海外傷害保険会社以外に、日本大使館、医療機関等と連携できるように連絡先等を引率教員だけでなく、派遣される学生にも事前に知らせておく。

帰国後の学習、取り組み

- ① 英語スピーチコンテスト等への参加、本校の国際交流行事等への積極的参加・協力を期待する。
- ② 感想・報告文の作成、派遣プログラム全体に関するアンケートへの回答（予定）
- ③ 成果報告会（5月頃予定）

派遣スケジュール (行程表) (3月14日(火)以降の現地校での授業内容・時間その他は現時点での予定で、変更の可能性があります、全体が把握しやすいように記載)

	日程: 2017年3月12日(日)～3月26日(日) (15日間、うち海外滞在13日間、授業9日間)				
	場所: ニュージーランド (滞在都市 ダニーデン)				
日数	日程	時間	都市名等	交通機関	内容
1	3月12日(日)	19:00	関西国際 空港発		関西国際空港集合
2	3月13日(月)		オークランド着 オークランド発 ダニーデン着	専用バス	Otago Polytechnic のバスで、学校へ移動。 ホストファミリー(HF)と対面⇒HF宅滞在開始
3	3月14日(火)				(14日以降全て説明会当日時点の予定) 8:45am エンジニアリング学部集合⇒諸連絡等(初日の3/14のみ9:30までリエンテーション、 9:30-12:00pm 英語の授業とテスト、 1:30-4:30pm 市内オリエンテーション?)
4	3月15日(水)				9:00-10:00am 英語コミュニケーションの授業 10:30-12:00pm 工業英語及びCADの授業 1:00-4:00pm 工学の授業
5	3月16日(木)				(2週目の授業の準備となる理論、設計、一部は実習) ダニーデン・スタジアム見学を含む?
6	3月17日(金)				3/16の昼食は現地学生とバーベキュー? 3/17の授業は3:00pmまで
7	3月18日(土)				自由行動(HFと一緒に過ごす) (またはオプション(有料)のツアー)
8	3月19日(日)				
9	3月20日(月)				8:45am エンジニアリング学部集合⇒諸連絡等 9:00-10:00am 英語コミュニケーションの授業
10	3月21日(火)				10:30-12:00pm 工業英語及びCADの授業 1:00-4:00pm 工学の授業

11	3月22日(水)				
12	3月23日(木)				3/23の昼食は現地学生とバーベキュー?
13	3月24日(金)				3/24のみ3:30pmから挨拶、プログラム修了証授与式
14	3月25日(土)	午前	ダニーデン発 オークランド着		オークランド市内(散策等) ホテルに宿泊
15	3月26日(日)	朝	オークランド発 関西国際 空港着		関西国際空港で現地解散

(注) 上記スケジュールは説明会時点での予定で、内容、フライト時間等の変更の可能性がある。

*3月13日

- ・オークランド空港出発まで旅行会社アイエスエー(日本)がサポート
- ・ダニーデン空港到着時、バスの手配(ダニーデン空港・学校間) : オタゴポリテクニク

**3月25日のスケジュール(参考:前回の内容)

- ・ダニーデン空港到着までのバスの手配(学校・ダニーデン空港間) : オタゴポリテクニク
ダニーデン空港出発時のサポート
- ・オークランド空港着から旅行会社アイエスエー(日本)がサポート
オークランド空港到着(お昼頃)
ダウンタウンでのショッピング(ランチは各自)(約2時間)
スカイタワー(約45分間)
オークランド博物館(約1時間15分)
マウントエデン(約45分間)
ホテル Grand Chancellor Auckland Airport 到着(夕刻)



- オークランド観光(スカイタワー、オークランド博物館入場料)及びホテル(前回参考: HOTEL Grand Chancellor Auckland Airport) の宿泊費やチェックイン、夕食をサポート

***3月26日

- ホテル朝食 (Box Breakfast) 、チェックアウト、オークランド空港での出発手続きを旅行会社 ISA がサポート

その他

- ホームステイには食事の他、ウィークデーの通学も含まれます。

Optional Activities (参考：前回企画分) オプションは有料で、希望者のみ申し込んで参加する

Queenstown Weekend - Student cost \$310



クイーンズタウンでの週末

2泊3日

交通費(バス)、宿泊(2泊)、朝食(2食)、夕食(2食)を含む。

A great weekend away! Queenstown is one of the most popular tourist destinations in New Zealand.

金曜午後にセントラルオタゴからクイーンズタウンに向けて出発。ワカティプ湖と美しい山々を見て一息。土曜にクイーンズタウン観光とアドベンチャースポーツを楽しんで日曜にダニーデンに戻ります。宿泊施設は「Nomads Queenstown

Backpackers」、オタゴポリテクニクのスタッフが同行します。昼食(2日分)は当日現地での支払いになります。

Cadbury Chocolate Tour - Student cost \$20

チョコレート工場の見学

土曜日 12.30pm~

This is a popular tourist attraction in Dunedin. Visit the Cadbury Chocolate Factory to see how chocolate is made - and taste it too!



Taieri Gorge Train scenic Trip - Student cost \$75

タイエリ峡谷鉄道

土曜日 2.10pm - 6.30pm

This is a wonderful train journey through the Taieri Gorge. The train stops at certain locations so you can have a short walk and take photos of the scenery.

派遣経費の見積概算（学生1人当たり）

約40～45万円（予定）

（内訳）

オタゴポリテクニクへの支払い（研修費・施設利用費・ホームステイ費） \$1,630
（ただし、大阪府立高専と合わせて40人参加の場合。人数が少ない場合、費用が上がる。現段階ではその可能性は低い。） (121,924円 7/12現在)
1NZドル=74.8円で換算

旅行者アイエスエーへの支払い 276,900円
関空～ダニーデン間往復の航空運賃、オークランド市内のバス
チャーター代・ホテル宿泊代、旅行業者取扱事務手数料、
空港税、出国手続諸費用等を含む。

ただし海外傷害保険料、旅券（パスポート）取得費用（所持しない場合のみ）、燃料サーチャージ料（現段階では、この費用は要求されていない）は含まない。

他に、小遣い代、オークランド市内観光中の昼食代、自宅と関西空港間の往復交通費等必要。
（大阪府立高専と事前に研修を大阪で行う場合は、その交通費が必要。）
また、オプションツアーを申し込む方はその費用が必要。

緊急連絡先等

① 現地での対応

- 現地提携校: Otago Polytechnic
所在地: Forth Street, Private Bag 1910, Dunedin 9054 New Zealand
担当: Nathan Dunbar
電話番号: +64-3-477-3014
- 現地事務所: NZIIU (New Zealand Institute of International Understanding)
8 Manukau Road, Newmarket, Auckland
Phone: 09 520 6980
Fax: 09 520 6981
- 緊急連絡先
Yasuko Nishiyama (NZIIU 代表) : 027 355 4906
Yuka Okabe: 027 355 4905
- 言語サポート番号 (First Language Support)
Phone: 09 520 6980
- 在ニュージーランド日本国大使館
所在地: Level 18, The Majestic Centre, 100 Willis Street, Wellington 6011, New Zealand
電話番号: +64-4-473-1540
- 在クライストチャーチ出張駐在官事務所
所在地: 12 Peterborough Street, Christchurch, New Zealand
電話番号: +64-4-473-1540
- 現地病院
Dunedin Hospital
201 Great King Street, Dunedin Otago, New Zealand
Phone : 03 474 0999

③ 本国内での対応

- 神戸市立工業高等専門学校
電話番号: 078-795-3322
- 旅行取扱業者: (株)アイエスエイ 関西支社 (担当 竹島様)
所在地: 大阪市北区豊崎 3-20-12
電話番号: 06-6374-0377
Fax 番号: 06-6374-0388

神戸市立工業高等専門学校長 殿

平成 28 年度オタゴポリテクニク短期留学応募申込書

案内の諸条件を確認の上で本年度のオタゴポリテクニク短期留学への応募を希望します。選考に合格した場合、教育委員会及び神戸市立工業高等専門学校の指示に従って派遣学生としての留意事項を遵守するとともに、説明会・研修会・報告会等の諸行事に参加することを了承します。

保護者氏名： 印

以下は応募学生が記載してください。

応募学生	クラス(記号で記入): 出席番号: 氏名:
英語力	英検()級, 工業英検()級, □TOEIC()点, その他()
希望コース	前回とほぼ同じプログラムの一般コースに加えて、機電系コースを設けることができた場合の希望を、次の3つから1つ選んで番号に○をしてください。(ただし希望の通りになるとは限りません。希望人数が多い場合、志望理由で意欲等を見て、また学年を考慮して決定します。) 1. 一般コース、 2. 機電コース、 3. どちらでもよい
志望理由	<p>NZで紹介したい日本や日本文化の内容、日本の工業やその教育の特徴、ホームステイを通して体験してみたいこと、NZで学んで帰り本校で紹介したい内容について具体的に記述して下さい。</p> <p>必ず学生本人が手書き(黒ペン)で丁寧に記入して下さい。 (コピー等して下書きをしてから、書くことをお奨めします。)</p>

本紙記載内容は 20 名を越えた際の選考材料と致します。申込書締切は 9 月 2 日 (金) 17:00、担任経由で国際協働研究センター長の連絡箱までお願い致します。